

「一律定額ベア」を勝ち取った大きな成果を確認し次なるたたかいに総決起しよう！

J R東労組は、回答指定日である3月15日、申15号第3回団体交渉において、①基本給1,000円増額、②定期昇給(昇給係数4)の実施、③グリーンスタッフ組合員の基本賃金500円増額の回答を引き出し席上妥結した。主要産別が昨年の妥結額を大きく下回る中、回答指定日に拘り、定額1,000円のベア回答を連合の集中回答日に勝ち取ったこと。そして、J R総連春闘を牽引し、連合春闘の相場形成に重要な役割を果たしたことは大きな成果である。

17春闘では、例年の春闘とは異なり、全組合員との総対話行動を基礎に「一票投票」において82.3%の高批准を得た。そして申14号『格差ベア』を無くし、全組合員一律定額のベースアップを求める緊急申し入れにおいて、定額ベア回答を引き出した。

また、全組合員の総意で「いつでもたたかえる体制」を構築した第33回臨時大会決定方針を背景に、賃金本質論に基づき「ベア」と「管理手当等」について区別し、ベアに「職責に応じた処遇の必要性」といった考え方をもち込ませなかった。同時に、「職責の重さを賃金に反映させる管理手当等の改善」という、管理手当等を明確に区別した考え方が回答書にも示された。このことは、ベアに「職責に応じた処遇」をもち込ませない為に、たたかいの結果として切り拓いた大きな一歩である。

J R東日本の第3四半期決算は、5期連続の増収、営業収益は過去最高を計上した。しかし、会社は世間動向や世界経済・日本経済の不透明さ、新幹線大規模改修引当金などの経費増による営業利益の減少、公共性・公益性の高い事業を営む企業として突出する事はできないとし、職場の厳しい現状に耳を傾けようとしない姿勢に終始した。このような経営姿勢に対し、我々はトップマネジメントとしての姿勢を問い、団体交渉を積み重ねてきた。

一方、春闘相場に大きな影響力を持つ自動車・電機は、昨年に引き続き3,000円という連合方針を逸脱する低額要求を行い、春闘相場が押さえ込まれる結果となった。同時に、マスコミも『トヨタ』や『電機』が昨年実績を下回る」などと集中回答日前に報道し、低額ベア相場が形成される中でのたたかいでもあった。

そのような逆風の中、J R東労組は、かつて経験したことのない緊張感、組合員一人ひとりと向き合った実践、そして勝利の実感、労働者が持つ権利を原則的かつ柔軟に駆使し、連続したたたかいを創り出した。本日、会社に示させた回答は、一律定額ベアを実現する組合員の本気度と質の高さ、641機関の激励行動をはじめ、全組合員との総対話行動、常駐体制や春闘集会など、創意あるたたかいを創り出してきた全分会・全組合員の奮闘が切り拓いた成果として確認しなければならない。そして、全組合員との総対話行動を基軸にスト権議論を巻き起こし、全分会の実践によって労使対等の原則を実現してきたからこそ、「一律定額ベア1,000円」を実現したのである。

まさしく、J R東労組運動の最高峰とも言える総対話行動によって創り出した組織力が、内外の厳しい状況を切り拓く原動力として具現化され、今回の大きな成果が生み出されたと確信する。

我々の眼前には、管理手当等の増額、グリーンスタッフの正社員化実現、65歳定年制の実現、エルダー雇用本体勤務枠拡充、さらには要員問題・安全問題をはじめとした課題が山積している。17春闘において勝ち取った「一律定額ベア」の大きな成果を改めて全組合員で確認し、職場から団結をさらに打ち固めよう！

そして、真の労使協力関係のもと、30年検証運動を通じて「J R改革」を実現するために、全組合員の総決起を強く要請するものである！

2017年3月15日
東日本旅客鉄道労働組合
中央闘争委員会